

さいたま新都心将来ビジョン 改訂版 骨子(案) 【概要版】

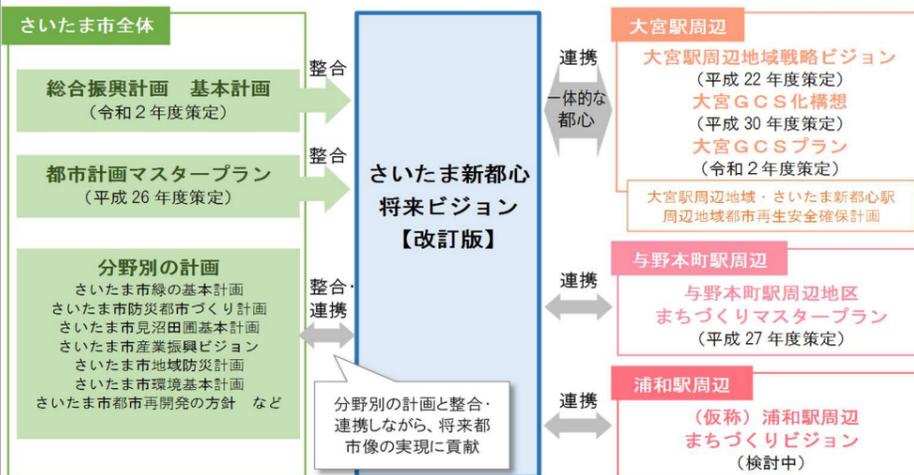
第1章 ビジョン改定の目的等

〈改定の目的〉

- 平成26(2014)年3月に、さいたま新都心周辺地区のまちづくりの基本的な指針として、「さいたま新都心将来ビジョン」を策定。
- この間、地区の基盤整備は概ね完了し、大規模土地利用転換も進行する中、前ビジョンの運用期間がおおむね10年経過。
- そこで、まちを取り巻く変化に対応し、さらなるさいたま新都心周辺地区の発展のため、ビジョンを改定。

〈ビジョンの位置づけ〉

- 市の上位計画及び関連計画と整合を図り、今後のさいたま新都心周辺地区のまちづくりの基本的な指針としての役割を担う。
- 隣接する周辺地域の個別計画等と相互に連携。

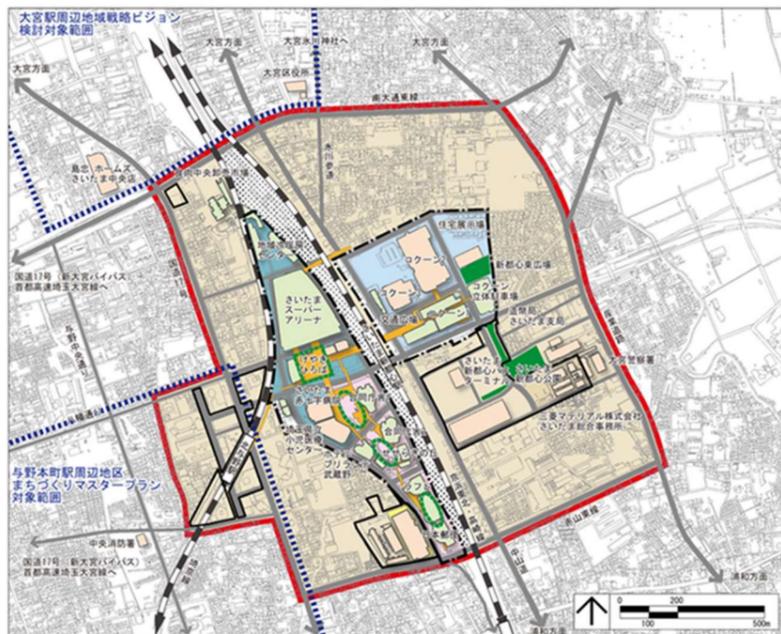


〈ビジョンの運用期間〉

概ね10年間(2023年～2032年) 2050年のまちの姿を展望し改定。

〈ビジョンの対象区域〉

北側を南大通東線、東側を産業道路、南側を赤山東線、西側を国道17号と北与野駅周辺で囲まれた、面積約200haの区域。



第2章 上位計画等におけるさいたま新都心の位置づけ

〈国におけるさいたま市の位置づけ〉

プロジェクト名	東北圏・北陸圏・北海道連結首都圏対流拠点の創出プロジェクト～東日本の玄関口機能を果たし、スーパー・メガリージョンを支える対流拠点の創出～
目的	東北、上信越・北陸方面からの新幹線が集結する「大宮」は、 ・東日本からのヒト、モノが集結して交流する最初の対流拠点 ・企業の取組支援、広域周遊観光ルート構築のための玄関口機能 ・首都直下地震発災時、首都圏の機能をバックアップする最前線 ⇒このため、東日本のネットワークの結節点として連携・交流機能の集積・強化を図るとともに、災害時のバックアップ拠点機能の強化を図る。
具体的取組内容	○国際的な結節機能の充実(交通機関相互の結節機能強化、各種交通モードのシームレスな利用を促進等) ○対流拠点機能の集積強化(ヒト・モノ・情報の交流促進、企業活動の活性化、広域周遊観光ルートの構築等) ○災害時のバックアップ拠点機能の強化(首都中枢機能を支える都市機能を充実、さいたま新都心付近をTEC-FORCE(国土交通省緊急災害対策派遣隊)の進出拠点に位置づけ等) (首都圏広域地方計画)

〈さいたま市における都心の位置づけ〉

【さいたま市総合振興計画】

- 将来都市像 「上質な生活都市、東日本の中枢都市」
- 将来都市構造 「都市機能の集積や豊かな自然環境との共生などにより、質の高い市民生活を支え、多彩な交流を生み出す、「水と緑に囲まれたコンパクト+ネットワーク型の都市構造」

○都心の位置づけ 「本市の「顔」として、良好な住環境に配慮しつつ、幹線道路網や公共交通機関の利便性を生かしながら、商業・業務機能等の高次な都市機能を集積し、広域的な都市活動や市民生活の拠点としての役割を担う」

○大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区の位置づけ
「大宮駅周辺地区においては、広域的な商業・業務機能や交流機能、さいたま新都心周辺地区では広域行政機能、業務機能、文化機能、交流機能等の機能集積を進め、両地区の連携を深めつつ一体的な都心としての形成を進める」
「東日本の対流拠点としての役割を果たし、新たな価値を生み出す都心地区の形成を目指す」

【さいたま市都市計画マスタープラン】

- 将来都市構造 「市街地が河川と緑地に囲まれた都市構造を維持するとともに、集約・ネットワーク型都市構造の形成」

○都心の位置づけ 「都心＝高度で広域的な都市機能が集積し、多様な都市活動や市民生活の拠点となる地区」
○大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区と浦和駅周辺地区＝都心と位置づける
○大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区の目標像 「氷川の杜や見沼田圃などからなるみどりのシンボル核の育成とあわせて、商業業務施設、公共公益施設、文化交流施設が集積した一体的な都心の形成を目指す」

第3章 前ビジョンの成果と都市機能の状況



ゆとりある公共空間
きれいで近代的な街並み

さいたま新都心駅西側の街並み

あらゆる便利が
あつまっている

コクーンシティ



にぎわい生まれる
数多くのイベント

さいたま新都心イルミネーション

災害に強い
安心・安全なまち

防災公園の役割をもつ
さいたま新都心公園



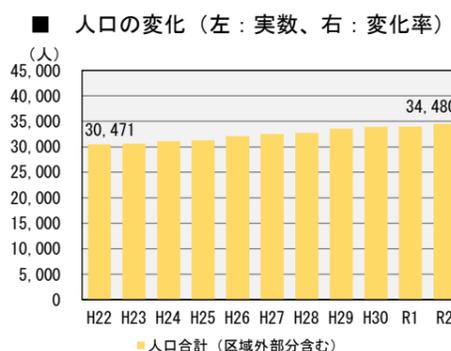
都市の中にも
快適な緑空間

けやきひろば

さいたま新都心周辺地区には、さまざまな価値や魅力を持つ機能がコンパクトに集積。今後はそれら資源を活用・発信していく。

〈都市活動の変化〉

- 地区内の人口は、10年で4,000人増加
今後も大型集合住宅の建設等により増加の見込み



第4章 将来にわたる変化

〈さいたま新都心周辺地区の動向〉

エリアマネジメント団体設立
R3年3月(一社)さいたま新都心エリアマネジメント設立。行政との連携で魅力的な空間創出・美しい街並みの維持管理などを期待。

さいたま市新庁舎等の整備
R13年度を目途に市役所本庁舎がさいたま新都心バスターミナルほか街区への移転の方向性が示され、現在検討を進めている。

さいたま新都心周辺地区の集合住宅の立地
住みたい街ランキングが急上昇。大規模集合住宅の建設が進み、地域の定住人口が増加。これからは都市の利便性を享受しながら快適な生活を送る「住」の要素も大切。

食肉中央卸売市場・と畜場の移転
R10年度を目途に見沼区への移転が予定されている。跡地はさいたま新都心と大宮の2つの地区をつなぐ位置にあり、にぎわいや連携の拠点となりうる。

〈さいたま新都心を取り巻く社会情勢の変化〉

- テレワーク、コロナによる企業・従業員への影響
- 建築物やインフラの老朽化・陳腐化・維持コスト増大
- 来訪行動・来訪者の変化

〈さいたま市の取組の状況〉

- SDGsの推進
- スマートシティの推進
- ウォーカーカブルなまちづくりの推進
- 二酸化炭素排出実質ゼロの実現
- バスタプロジェクトの推進
- みどりに関する取組

第5章-1 改定の方向性

●変化に応じた新しい視点

◆前ビジョン策定後の変化に対するキャッチアップ

都市機能の連携強化、公共交通乗り換え利便性、大宮地区等との連携強化
都心居住志向への対応、激甚化災害に対応するレジリエントなまちづくり
ユニバーサルデザインへの対応 等

◆「まちを育て、活用していく時代」への移行を踏まえた戦略検討

官民連携、エリアマネジメントを軸として、公共空間の活用や美しい街並みの維持管理、ウォーカーカブルシティの実現等を目指す

◆まちの変化や今後の社会の変化を見据えた新たな都市モデルの提示

集客力、機能的な都市空間、AI等の新技術の活用により、本市全体の課題解決を牽引する先駆的取組を展開する都市モデルを提示
市役所本庁舎移転をはじめとしたまちの変化を踏まえる

●前ビジョンの継承

「広域的な都市活動の拠点、にぎわいあふれるまち」

「広域的な安心・安全を担うまち」

「豊かなみどりと都市機能が融合するまち」

を踏まえ、今まで進めてきた3つの将来像を途切れさせることなく、さらに充実させる形で進めていく。

第5章-2 まちの将来像

〈将来像1〉

広域的な都市活動の拠点として、刺激的な出会いや体験を提供する、**にぎわいあふれるまち**

- 大宮駅周辺地区と連携、浦和駅周辺地区等との機能分担・連携
- 従業員、来訪者、周辺住民が、互いに出会える場(空間、機会)を増やし、交流を促す都市活動の拠点
- エリアマネジメント、公有地の活用「そだてる」取組を意識して推進

【アクティビティの展開イメージ】

～機能的なまちから、人と人がつながるまちへ～

- | | |
|------|--|
| 働く人 | ・快適なオフィスで働く
・働く人同士が交流、情報交換できる多様な場がある
・東日本の企業の営業拠点となり、働く人の顔ぶれが変わる |
| 来訪者 | ・通路や公園で買い物やイベントを楽しむことができる
・その中で、東日本の文化、モノに触れることができる |
| 周辺住民 | ・地域活動で集まれる場が充実、住民のネットワークが広がる |

〈将来像2〉

広域的な**“安心・安全”**を地域と連携して担うまち

- 地域の広域防災機能や防犯拠点機能の強化充実
- さまざまな主体が連携し、災害時には安全を確保
- 周辺の人も逃げ込める、安心・安全を担うまちを目指す
- 頻発化、激甚化する災害にも耐えうる「レジリエントなまち」

【アクティビティの展開イメージ】

～災害時に留まれるまち、逃げ込めるまちへ～

- | | |
|------|---|
| 働く人 | ・災害時に建物の安全性や交通等の状況、行政の災害対応情報等が確認でき、的確な行動判断ができる |
| 来訪者 | ・帰宅困難者は必要な時間、安全な場所に滞在できる
・災害時の地区の安全性から、新たな事業者の出店、立地がある |
| 周辺住民 | ・災害時の一時退避場所として、逃げ込めることができる
・行政の災害対応情報等を受け取ることができる |

〈将来像3〉

みどりと都市が共生する、居心地よく、ゼロカーボン牽引するまち

- 公民が連携してみどりの保全・緑化の推進に取り組んでいく
- 歩きたくなる、居心地の良い「ウォーカーカブルな」空間の創出
- 地域資源を生かし「みどりと都市が共生する持続可能なまち」を目指す
- 再生可能エネルギーの積極的な導入、ゼロカーボンシティ実現

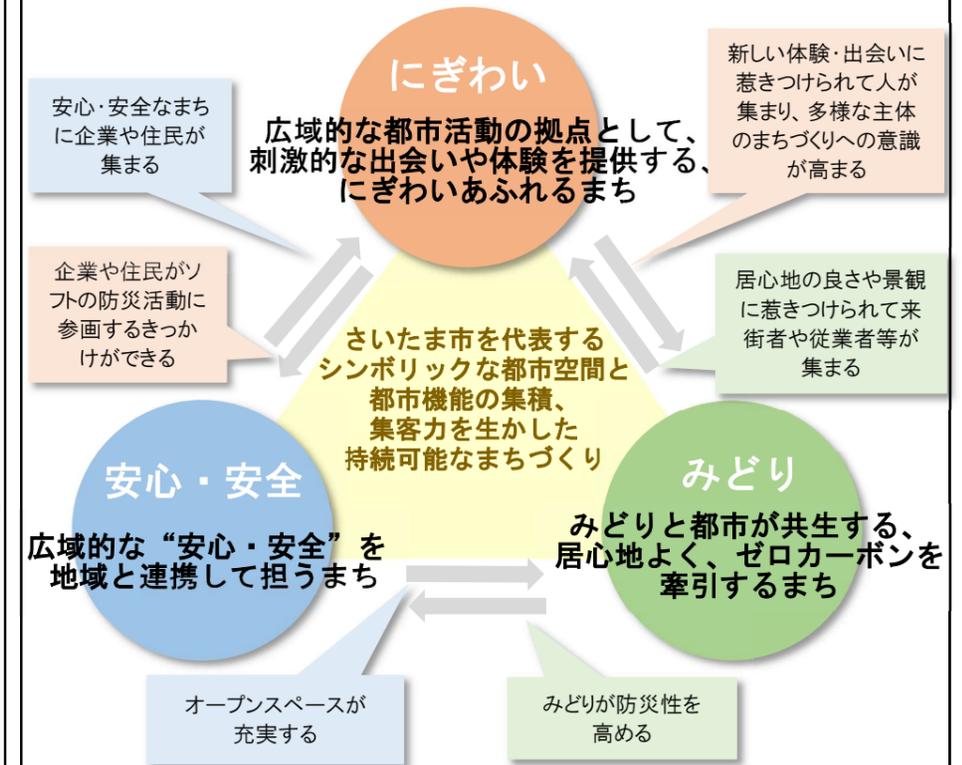
【アクティビティの展開イメージ】

～安全に歩けるまちから、歩いてみたくなるまちへ～

- | | |
|------|---|
| 共通 | ・歩行者専用のペDESTリアンデッキやユニバーサルデザインの整備がされており、安全に歩くことができる
・真夏でも緑陰等があり快適に歩ける
・大宮～氷川参道～新都心まで魅力的な街並みがある
・公園などを活用した店舗やイベントで地区を広く利用できる |
| 来訪者 | ・見沼田圃や与野本町駅周辺地区へ快適に移動できる |
| 周辺住民 | ・日常で外出の機会が増えて、散歩する時間が増える |

第5章-2 まちの将来像

■ 将来像の概念図(略図)



策定スケジュール

